



REPORT ③ わんぱく消防隊出動!! 東城町内の小学生などが消防体験

「わんぱく消防体験」が8月1日、庄原市消防団東城方面隊の夏期訓練にあわせて実施されました。



▲消防団員と放水体験

東城消防署の消防士や消防団員の指導のもと、消防車による放水や消火器による消火など、小学生やその保護者など75人が体験しました。

また、住宅用火災警報器の実演もあり、警報器の鳴り方や火災時の対処方法の説明に耳を傾けました。参加した子どもたちは「水の勢いがすごくなかなか的に当らなかった。消防士さんはすごい」と興奮気味に話していました。



なつかしの唱歌で気持ちをひとつに みんなで歌うカナリヤの会

REPORT ④

「カナリヤの会」(上田幸治代表)が口和郷土資料館で月に一度、ギターやピアノの伴奏に乗せてなつかしい唱歌や歌謡曲を歌っています。

この会は懐かしい歌を楽しく歌うことを目的に昨年6月に発足。口和地域のメンバーを中心に77人で活動しています。今回で10回目となった7月15日には40人が参加し、メンバー1人のアコーディオン演奏で「川の流れるように」など8曲を合唱。懐かしい曲にその頃の思い出を重ねながらメロディーを口ずさんでいました。



▲いつもにぎやかなカナリヤの会メンバー

REPORT ⑤ もぎたての甘さとみずみずしさを実感 西城小・美古登小トウモロコシ収穫体験

西城小学校と美古登小学校の5・6年生の児童42人が8月10日、西城町油木の畑でトウモロコシの収穫体験をしました。

子どもたちに自然の中で豊かな体験を通し「食」を考えてもらいたいと前油木営農組合が企画したもので、今年5月に児童が自分たちで種をまき、約150センチの高さにまで育った茎から、大きく実ったトウモロコシを収穫しました。児童たちは、もぎたてのトウモロコシを生のまままるかじりさせてもらおうと、その果物のような甘さに驚いていました。

その後、油木小学校体育館に移動し、同営農組合員から、トウモロコシの種まきから施肥や消毒、イノシシなどからの被害を防ぐ対策など収穫を迎えるまでの作業行程やその大変さを聞いたあと、炭火焼にされたトウモロコシや手づくりおにぎりを味わいました。

前油木営農組合の高原芳典さんは「大切に育てた食べ物にありがたくいただくようにしてほしい」と話していました。



▲自分の背丈ほどに育ったトウモロコシを収穫する児童

完成待ち遠しい! 高速道路 尾道松江線現場見学会

REPORT ①

平成24年度の開通を目指し、急ピッチで工事が進む尾道松江線の工事現場説明会が8月3日、高野インターチェンジ付近で開催されました。

これは、上高・下高公民館が一昨年に続き、国土交通省三次河川国道事務所の協力で実施。地元や広島市などから50人が参加しました。

工事現場を訪れた参加者は、現場の石を種類ごとに



▲記念に石をもらう参加者



▲地上31mの上空を見上げる参加者

叩いて音や硬さを比べたり、完成図を頭に思い浮かべながら現場を見渡したりしました。次の見学先、下門田橋(仮称)の工事現場では、工事用エレベータで地上31mに上り「やじろべえ工法」で橋が繋がっていく様子を見学。「こんな経験は2度とできない」と参加者たちは喜び、完成を待ちわびていました。

REPORT ②

ゆったり散策夏山の自然とふれあう 第22回吾妻山グリーンラリー

8月8日に吾妻山グリーンラリーが開催され、総勢41人が参加しました。

吾妻山グリーンラリーは、吾妻山の大自然の中を、木々や草の名前などを調べながらハイキングし、森林浴、体力づくりとあわせて、自然とのふれあいをより深めてもらうことを目的として、毎年8月8日(はっばの日)に行われています。まず、比和文化会館・博物館で草木の学習をしたあと吾妻山へ移動し、休暇村吾妻山ロッ



▲親子で散策中



▲みんなゴールできました

ジを出発。2歳から60歳までの親子連れチームや小学生チームなどが、マイナスイオンを浴びながらゆったりと時間をかけて約2kmのコースを散策。15のチェックポイントがあり、樹木検索表などで樹木や草花の種類を一つ一つ調べながらゴールを目指しました。

参加者は「いろんな植物の名前を覚えることができ良かった」「山は涼しくて気持ち良かった。来年も参加したい」と話しました。

REPORT ⑨

ヒバゴンに託すふるさとからのメッセージ ヒバゴン出沒40周年記念切手発売

ヒバゴンのオリジナルフレーム切手シートが7月30日から発売され、好評を博しています。

昭和45年の夏、西城町比婆山麓に現れた謎の類人猿は、出沒地にちなんでヒバゴンと名付けられ全国的に報道されてから今年で40年。その表情は、驚きや恐れの対象からユーモラスで愛くるしいものへと次第に変化し、多くの産物やまち中の看板、映画にも登場するなど、地域の人から親しまれています。

西城円卓会議では、出沒40周年の今年、地元の団体などと連携し、ヒバゴンを題材にしたアイデアを形にしています。この切手シートは、ヒバゴンを切手にしたいという美古登郵便局の竹内隆文局長と西城円卓会議の思いが一致し、NPO法人ヒバゴンの知恵袋のデザイン協力によって実現したものです。

発売日に西城支所で贈呈式が行われ、西城支所長と



▲竹内局長から手渡されるヒバゴン切手 ▲80円切手10枚の切手シート
NPO法人ヒバゴンの知恵袋前田理事長に、切手シートが手渡されました。

竹内局長は「西城らしさを凝縮した切手ができた。西城からのメッセージを切手に託して全国に届け、町を元気にしたい」と話していました。



▲夜市の雰囲気を楽しむ

会場の東城まちなか交流施設「えびす」には、金魚すくいやヨーヨー釣り、射的や似顔絵コーナーをはじめ、焼き鳥や広島牛の鉄板焼きなど、楽しくて美味しい屋台が赤ちょうちんと共に並びました。また、ステージ

四半世紀ぶりにぎわい えびすで土曜夜市を開催

REPORT 10

東城の夏の風物詩だった土曜夜市が四半世紀ぶりに復活し、7月31日に開催されました。

では音楽に合わせ踊りながら壁画を完成させるライブペイントや、ギターや尺八などの演奏も行われ、県内外から約800人の来客でにぎわいました。

夜市は、8月7日・14日も行われ、特設ビアガーデンやソーメン流し、パントマイムショーやマジックショーなど、週替りで様々なイベントが行われました。

夜市を主催した田原守人実行委員長は「地域の方々が夜市で出会い、話し、交流を深めることで、地域のにぎわいを復活させたいと企画した。みんなの楽しそうな表情や笑顔が嬉しかった。来年もぜひ開催したい」と思いを語りました。

REPORT 11

豪雨災害からの復興を祈念して シティホールライブin祈夜



▲祈りの音色が市民ホールに響き渡る

「シティホールライブin祈夜」が8月6日、市役所で開催されました。

このライブは、市役所を親しみのある場所にしたいと始まったイベントで、今回は庄原豪雨災害の復興を祈念したチャリティーライブとして開催。プロの演奏家や市民、学生グループなど7組が楽曲を披露し、集まった150人の聴衆を魅了しました。

会場では災害復興募金箱が設置され、豪雨災害によって被災した家屋や豪雨のあった日の様子を撮影した写真パネルが展示されました。

ライブ実行委員の山口雪子さんは「自分たちが好きな音楽を通して、何かできないかと企画した。これからも平和や命をテーマにしたライブを続けたい」と話していました。

大自然の中で健康増進を図る かさべるで杯親善ゲートボール大会

REPORT ⑥



▲大自然を背に一打の集中力も高まる

第15回記念庄原市比和かさべるで杯親善ゲートボール大会が7月18日、比和総合運動公園で開催されました。

この大会は、自然豊かな運動公園に集い、お互いの親睦を深めながら、参加者の体力づくりや健康増進を図ることを目的として開催されました。県外者を含む44チーム約270人が参加し熱戦が繰り広げられました。毎年参加を楽しみにしている常連チームも多く、参加者は1つ1つのプレーに一喜一憂しながら、1日を楽しんでいました。

また会場では、地元の特産品・加工品などの販売も行われ、参加者との交流を深めました。

REPORT ⑦

プロの演奏家が指南 クラシックセミナーが開催



▲プロの演奏を手本に学ぶ受講生

ひろしま夏の芸術祭クラシックセミナーが7月23日、庄原市民会館で開催されました。

この事業は、プロの音楽家を講師に迎え、管弦打楽器の公開指導を行うもので、県内の9会場で行われました。庄原会場では、音楽を始めたばかりの方を対象に開催し、庄原中学校・西城中学校・東城中学校の生徒など約90人が参加しました。

対象楽器は、トランペット、トロンボーン、サクソフーン、フルート、クラリネット、パーカッション、ホルンの7楽器で、吹くときの姿勢の大切さや動作の基本などを各楽器の専門講師が丁寧に指導。受講生たちは「また来年も来たい」と喜び、声を弾ませていました。

一緒に作って一緒に食べて楽しく食育 夏休み子ども料理教室が開催

REPORT ⑧

子ども達が料理の体験を通して、楽しく「食」について学ぶ「夏休み子ども料理教室」が8月9日、総領健康福祉センターで開催されました。



▲おいしく出来上がりますように

教室には総領小学校の児童37人が参加し、アメリカの郷土料理チリコンカン、夏野菜サラダ、フルーツポンチの3品目の調理にチャレンジ。にぎやかな雰囲気の中、調理や作業の担当を決めながら、それぞれの役割をこなしていました。

タマネギをみじん切りにするときには、みんな涙目になりながらも乗り切り、料理を完成させました。児童たちは自分たちの手料理に「おいしかった」とおかわりに手を伸ばしていました。